

## 筋肉と疲労に関わるバイオマーカーのご案内その2「疲労編」

体内の生化学物質の変動を評価指標とするバイオマーカーは、客観的に状態を評価できる指標です。

バイオマーカー測定においては、感度及び特異性の優れた測定法が期待されています。

最近多くのお問い合わせを頂き、弊社で測定経験のある筋肉と疲労に関わるバイオマーカーとその臨床的意義を一覧に纏めました。

ご興味、ご不明な点がございましたら、下記メールアドレスもしくはHPよりお気軽にお問い合わせください。

検査項目名	臨床的意義
アミノ酸分画	蛋白代謝の異常を各アミノ酸の定量から推定する検査。
GH	成長促進、蛋白同化、脂肪分解などをおこなう下垂体前葉ホルモン。
ソマトメジン-C (IGF-1)	GHの働きにより産生される物質。 GHに比べ血中濃度が生理的変動に左右されにくく安定している。
コルチゾール	ACTHにより調節され、主に副腎皮質束状層から分泌される糖質コルチコイド。
唾液中コルチゾール	慢性ストレスの指標として有用との報告がある。
唾液中sIgA	急性ストレスの指標として有用との報告がある。
BDNF	神経細胞の生存・成長・シナプスの機能など、神経細胞の成長、調節に必要とされる蛋白質。
インターロイキン-6	B細胞の分化誘導因子として発見。
インターロイキン8 : EIA	炎症性サイトカインなどの刺激により産生される白血球遊走因子。
インターロイキン-10	Th2細胞で産生される抗炎症性のサイトカイン。 Th1細胞のサイトカイン産生を抑制する働きを持つ。
インターロイキン1ra ※	単球、マクロファージからIL-1とともに産生される抗炎症性のサイトカイン。
腫瘍壊死因子-α	腫瘍壊死作用をもつサイトカイン。炎症反応のメディエーターの一つ。
8-OH-dG	生体内における酸化ストレスを反映するとされている。
8epi-PGF2α	血小板の活性化に関係すると言われており、尿にも排出される
NK細胞活性	NK細胞の活性を定量。

※ 当社関連会社の「九州プロサーチLLP」\*で実施しました。

\*九州プロサーチLLPの受託サービスはこちら → <https://kpsl.jp/service-list>

### ■お問い合わせ先（治験事業統括センター）

〒174-0053 東京都板橋区清水町 36 番 1 号

E-mail : NPA-LSIM-HO-DDSSO@nm.medience.co.jp

HP : <https://www.medience.co.jp/medichem/trial/contact/>